

## 汗、擦り傷、土埃の先に… — 銀杏に想う —

校長

台風14号が過ぎた朝、桜の枯葉に混じって銀杏（ぎんなん）の実が落ちていました。まだ葉は緑ですが、実はオレンジに熟し始めていて、確実な秋の訪れを実感させます。



9月17日（土）に、第39回運動会が実施されました。全学年そろっての全日開催は実に3年ぶりです。秋晴れの空の下、全校生徒が顔を上げて力強く行進して来る姿、それだけで涙が溢れ出しそうでした。「これが学校だ、そして学校はこうでなければ」と強く思いました。

予行の日、私は生徒たちに「運動会で君たちが見せる『品格』とは何かをしっかりと考えてほしい」と問いかけました。その後、数名の生徒に尋ねると、「真剣さ」「あきらめない姿」「協力」…などの答え。とらえ方は様々でしたが、「目指す学校像」について生徒が真剣に考えていることに力強さを感じました。

### ○ **“ビリ”でも全力で！**

トップでゴールテープを切る生徒の晴れがましい姿は、見ていても気持ちの良いものです。そして、例え“ビリ”であっても全力を尽くし、歯を食いしばってゴールする姿は、優勝者と同じくらい感動を与えるものだと再認識しました。リレーであれ、個人種目であれ、団体競技であれ、すべての種目・競技で順位に関わらず最後まで真剣にやり切る姿が見られました。

### ○ **退場後も走る、係も走る！**

退場門を駆け抜けた後も、誰も走ることを止めませんでした。退場も競技や演技の一部と理解していたからでしょう。競技以外にも、監察・決勝審判・用具など、たくさんの係があります。生徒たちは係の仕事でも真剣に走って移動をしていました。係も「運動会」の一部であると自覚していた証拠です。

### ○ **失敗を笑わない。応援し、励まし、称える。**

勢い余って転倒する場面がたくさんありました。リレーでバトンを落とすことも。生徒も観客も、誰一人笑うことはありませんでした。それどころか、応援し、励ます声が響いていました。そしてゴールした時、バトンを拾い上げた時、大きな拍手が起こっていました。

これら以外にも、書ききれないほど感動の場面があり、気付いたら涙が出ていることがありました。生徒たちは、汗にまみれ、擦り傷を作り、全身に土埃をかぶり、まさしく「泥だらけの青春」を体現していました。今一人一人に問いたい。その先に見えたものは何だったのだろうか？やり切った充実感と興奮が冷めない今、一人一人がその答えを持つことを期待しています。そして、私にとっては、それらは生徒たちが運動会前に思い描いた「品格」の具体だったということ、運動会に関わったすべての人と共有したいと思っています。

この後も、合唱コンクールをはじめたくさんの行事が予定されています。銀杏の花言葉に「莊嚴」があります。一つ一つに品格ある行動を示し、莊嚴ささえ感じさせる黒西中を創っていきたいと考えます。